

# 妹系グラビアアイドル衝撃AVデビュー

～初生中出し体験～

ファンの皆さん  
ひかりでいっぱい抜いてくださいね♥

経験少ない  
パイパンマ○コ♥

私の名前は笹臈ひかり  
グラビア出身です

笹臈 ひかり(18才)  
身長:150cm 体重:ヒミツ  
B83/W54/H83

経験人数は一人です。元彼と夏休みに…

DOJIN  
R18  
成人向け

18歳未満の  
購入・閲覧禁止

私の名前は笹脇ひかり。  
お仕事はグラビアアイドルです。

「うん、いいね。  
そのままお尻を  
こっちに突き出して…」

「はい」

最近はいわどい水着ばかり。  
それでも作品もあまり売れなくて、仕事が少なくなりました。



私の胸は大きくもなく、ごく平凡な普通のサイズです。  
妹系ということで売り出していましたが  
そろそろ年齢的にも限界が来ていました。

「ひかり。  
この写真集を販売したら  
例の話を進めてもいいかな？」

「あ、社長。  
はい…」

そして次に待っていたお仕事は、AVでした。  
抵抗はあったけど、お仕事がなくなるのが嫌だったので  
引き受けました。





そして数か月後。いよいよ撮影の日がやってきました。

「こんにちは」

「…こんにちは」

「可愛いね」

「いえ…そんな…」



「自己紹介してもらえるかな？」

「笹脇ひかり、18歳です。よろしくお願いします」

「よろしくね。…緊張しているようだね。リラックスして」

「はい…」



「ひかりちゃんは、グラビア出身なんだよね？」

「…はい。しばらくお仕事を続けさせて頂きました」

「そして今日が待望のAVデビューか。  
その頃からのファンは、感動モノだろうね」



「…そう思っていただけだと嬉しいですけど」

「じゃあ、早速ファンのみんなに、ひかりちゃんの裸をお披露目してもらえるかな？」

「はい…」

うう……。とうとうカメラの前で裸になっちゃった……。恥ずかしいよ……

「うん、なかなかいい形のおっぱいだね。」

陰毛も生えてなくてツルツルだし。妹系って感じだよね。(うーん、可愛いけどそれ以外あんまり特徴が無いな……。まあ、2年くらいが限界だろうな……)」



「あ……。ありがとうございます……。(そんなにじろじろ見ないで……)」

「うーん、このままインタビューを続けても緊張がとれないだろうし、エッチしながら始めちゃおうか？」

「はい……」



男優さんは私に近づき、愛撫をしながらキスをしてきました。

「んっ…ちゅくっ…んっ…」

「ひかりちゃん、初体験はいつ？」

レロ  
レロ♡

さわ  
さわ

「んっ…ちゅっ…えっ…16の時です。」

「当時お付き合いしていた彼氏と…。今はもう別れてフリーですけど…」

「へえ…経験人数は？」

「れろ…ちゅっ…一人です」

「じゃあ彼氏としかしてないんだ。結構奥手なんだね。それじゃああんまりエッチとかしてないんだ？」

「はい…夏休みの時に、2、3回エッチしただけです…」



優しいキスだなあ……。触り方もエッチだし。  
カメラの前なのに、変な気持ちになってきちゃうよ……

「エッチは好き？」

「んっ……んっ……あんまりしたことないですけど……好き……です」

レロ  
レロ♡

「ひかりちゃんの性感帯は？」

「んっ……ちゅっ……えっと……胸とか……」

「胸はまあそうだね……本当は他に感じるところあるでしょ？」

「えっと……」

「恥ずかしがらないで」

「……クリトリス……です……」

「そうそう、正直でいいね。今日はいっぱい感じさせてあげるからね。ベッド行」  
「うか」

さわ  
さわ

「ひかりちゃんを感じやすいっていうおっぱいを揉ませてもらうかな」

「んっ…」

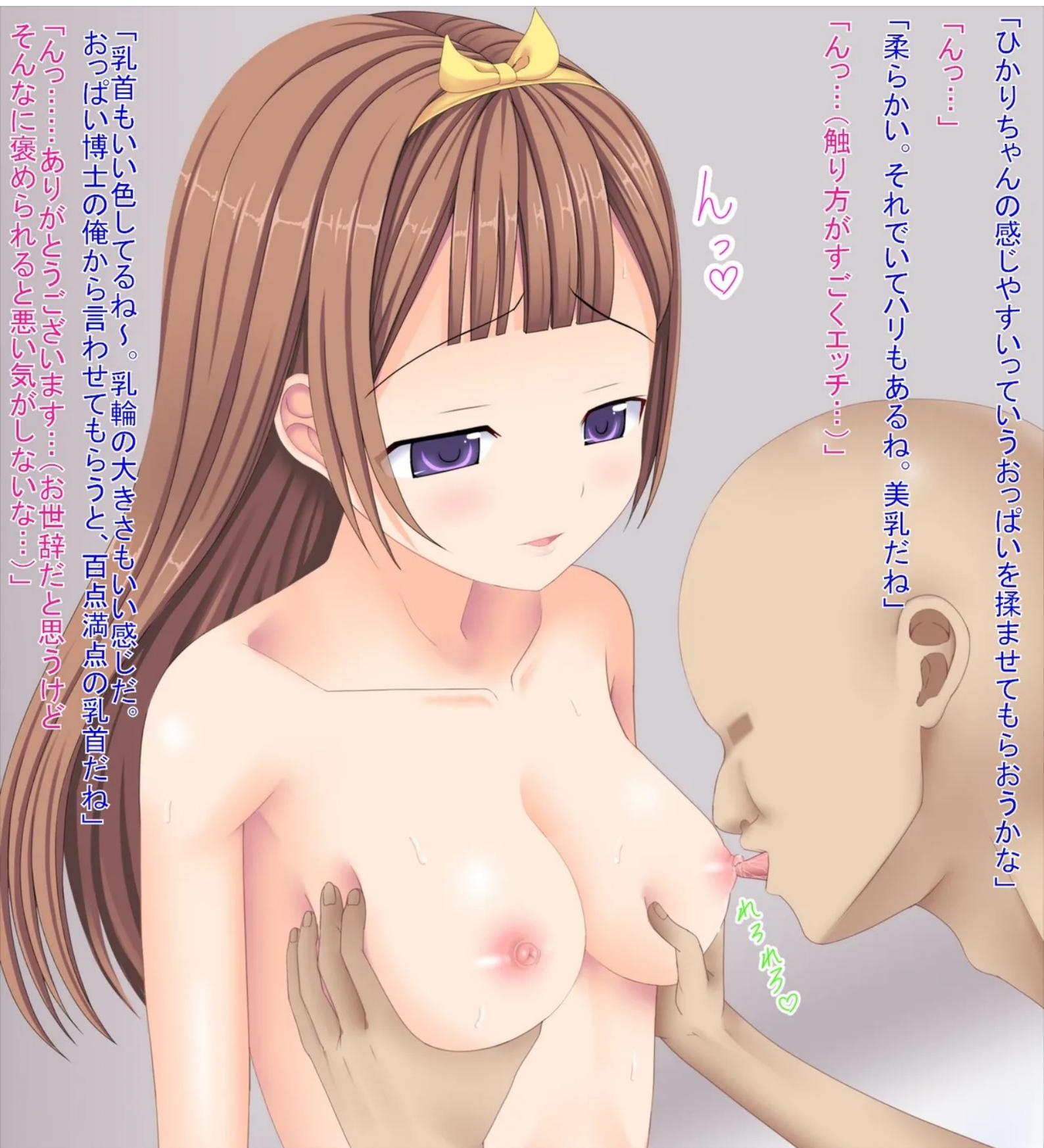
「柔らかい。それでいてハリもあるね。美乳だね」

「んっ…（触り方がすごくエッチ…）」

んっ♡

れろれろ♡

「乳首もいい色してるね。乳輪の大きさもいい感じだ。おっぱい博士の俺から言わせてもらっと、百点満点の乳首だね」  
「んっ……ありがとう」ざいます……（お世辞だと思うけどそんなに褒められると悪い気がしないな……）」





「乳首の感度はどうかな？」

「あっ…」

あ♡

♡♡♡♡♡

「感度もいいね。乳首も勃起して硬くなっているよ？  
乳首がふやけるまでいっぱい舐めてあげるね…じゅるっ…じゅるっ…」

「んっ…あっ…(すごい舌使い…感じて声でちゃっ…)」



乳首でイっちゃうなんて初めて…。  
フェラチオあんまりしたことないけど、お返しに  
イかせてあげたいな…

「んっ…んっ…」

「おお…お…ひかりちゃんはフェラチオしたことあるの？」

「はい。レロッ…レロッ…2回位ですけど…」

「じゃあまだ初心者なんだね。  
それにしても結構上手だよ」

「レロッ…レロッ…本当ですか？」



「なんかこう一生懸命というか、イかせてあげたいっていう  
必死さが伝わってくるね」

「んっ…んっ…(気づいてるんだ…。やっぱり経験豊富なのかな)」



「でも一番大切なのはその一生懸命さだよ。  
きつと以前からのファンもひかりちゃんのそういうとろを好きに  
なったんじゃないかな？」

「んっ…ん…ありがとっ」ざいます…」

「んくっ…んっ…（この裏すじのところが気持ちいいのかな…）」

「ああ、そこいいね…。  
そうそう…そのまま啜えて一気に吸って…」



「んっ…んっ…」

「ああ…ひかりちゃん…気持ち良い…。そろそろイキそうだよ」

「ひかりちゃん、そろそろ出すよ?」

「んっ…んっ…出してください…(す)く辛そうにしてる…  
本当にイっちゃいそうなんだ…」

「ああ…出るっ!」

「んっ!?!」





「んっ…んっ…(す)いいっぱい出てる…うっ…うっ…苦い。  
この味も匂いも久しぶり…。でもなんか濡れちゃう…  
私変態なのかな…」

「ひかりちゃんのフェラ気持ちよくて、たくさんでちゃったよ」

「んくっ…んっ…良かったです…  
(感じてくれたんだ…。嬉しいな…)」



今度はカメラの前でまんぐり返しになるように言われました。  
うう…今まではグラビアで水着をつけてやったことはあるけど、  
裸でやるのとは全然違うよ…物凄く恥ずかしい……

「ほら、ファンの皆にひかりちゃんのおまんこをじっくり見せてあげて。みんなずっとこの瞬間を待ち望んでいたと思うから」

「はい…」

「ほら、おまんこの中までじっくり見せてあげてね」

「あっ……(いやっ……そんなに拡げないで……恥ずかしい……)」

く  
ぽ  
あ♡

「ヒダが綺麗な形してるね。ハートの形みたいだ。  
ファンの皆にはモザイクかかって鮮明には見せられないのが  
残念だよ」





「ひかりちゃん、恥ずかしいのかな？」

「は…はい…すすく…」

「恥ずかしいけどそれが興奮するんだね。さっきからずっとマン汁が溢れ出てるよ」

「あっ…（いや…私そんなに濡れてたんだ…）」

「ひかりちゃんはMなんだね。ファンの皆もきつと喜んでるよ」

「うう…」



「マン汁の味はどうか？」

「あっ……んっ……！（あっ……舌が……）」

「美味しいね。なんていうのかな……ひかりちゃんの体は  
甘い香りがするから、それと混ざって甘塩っぱいね。  
マン汁ソムリエの俺から言わせてもらおうと、星5つだね」

ん♡

レロ

レロ

「んっ……んっ……（クンニされたの初めて……舌が絡みついてす……  
クンニってこんなに気持ちいいんだ……）」





「ひかりちゃんのマン汁をじっくり堪能できたところで、性感帯がどれくらいの感度か確かめさせてもらおうかな」

「あっ……んっ……！（あ……今すごい声でちゃった……）」

「ふふ、今すごい声だね。感度良好だね…レロレロ…レロッ…」

あぁっ

「あっ……！あ……！（何これ……体に電気が走ったみたいにビクビクって感じちゃう……）」



ダメっ…またイっちゃいそう……この男優さんすごく上手…

「あっ…ああ…あ…い…イク…」

「じゅるっ、じゅるっ……ッロッロッロ…ッロッロッロ…」

あゝ…

ビク

「あああ…あああああ…！」

ビク





またイっちゃった…。こんなに気持ちよくていいのかな？

「ひかりちゃん、たくさんイっちゃったんだね。」「もう濡れ濡れだよ？」

「は…はい…」

男優さんのオチンチン、また大きくなってる…。  
さつき射精したばかりなのに…

「よし、じゃあ入れちゃおうか」

「はい…」

いよいよセックスしちゃうんだ…カメラの前で…。  
分かってたけど、いざすると思うとすごく恥ずかしい…

「フアンみんなも」の瞬間を待ちわびているはずだよ」

ちゅっ♡



「セックスは何年ぶりだっけ？」

「えっと…2年ぶり…です…でも…生は初めてで…」

「へえ、生挿入初めてなんだ？ということとは生中出しも経験したことないんだ？」

「は…はい…。彼は生でしたかったみたいですけど」

「あの時はまだ学生だったので…ゴムをつけてもらいました」

「じゃあもう初体験みたいなものだね。  
ファンのみんな、ひかりちゃんの初生挿入を頂きます」





「ほら、見て？生オチンチンがだんだん入っていくよ？」

「あ……あ……（本当だ……入ってる……この感覚久しぶり……）」

「入り口が狭めだね……これは名器の予感だ」

「んっ……んっ……（やっぱり大きい……ちよつと痛いかも……）」

あ♡

ぬ  
131°

ぬ  
131°

「ほら、まだ入るよ……」

「あ……あ……（まだ入るの……？すごく長い……元彼のと全然違うよ……）」



「ほら、奥まで入ったよ…」

「ああ…んっ！」

ズッ

ズッ

「動かすよ」

「あんっ…あんっ！」

すごい…  
太くて…硬くて…  
奥まで当たってる。  
自然と声がでちゃうよ…。

あっ♡

「うーん、気持ちいい。  
いっぱい感じさせてあげるからね…」





「あんっ！あつ……！あんっ！あんっ！」

「喘ぎ声も可愛いね。普段からアニメ声って言われるでしょ？」



「あつ……あんっ……は……はい……」

あ♡

あ♡

「声が可愛いと男は興奮するよ。  
その可愛い喘ぎ声を、ファンの皆にたくさん聞かせてあげて……」

「今度はバックでしてみようか？ほら、四つん這いになって…」  
「はい…（バックも初めて…）」

ああ…

チオイッ…

監督さんの指示があつて、男優さんは  
自然と私をバックへと誘いました。

「ほら、いれるよ？」

「あっ…（えっ…さっきよりも入ってくる…）」





なにこれ…すごい奥に当たって感じちゃう…！  
バックってこんなに感じるんだ…。

あ♡

「あんっ！あっ！  
あんっ！んっ！」

す♡

パン

パン

「バック、すごい感じてるみたいだね…。  
ひかりちゃんのおまんこきつく締めつけてくるよ」

「あんっ！んっ！あんっ！あああっ！」

ダメ…そんなに突いちや…おまんこ壊れちゃうよお…！



今度は騎乗位でエッチ。  
これも初めて…AVってこんなに色んな体位でエッチするんだ…

「ひかりちゃん、騎乗位したことあるの？」

「あっ…んっ…初めてです…」

「へえ…。その割には腰振っていきやすいね…」

あんっ♡

「あっ…んっ…あ…（私、自然と腰振ってた…）」

「やめることないよ。ひかりちゃんがいきやすい子っていうのが分かってファンの皆も興奮してるんじゃないかな。ほら、もっと腰振って…」

「んっ…んっ…」

ズブッ！

ズブッ！





あ…カメラが近づいてくる…。  
やだ…私のオマンコにオチンチン入れられているところアップで写されてる…

「あんっ！んっ！あんっ！あんっ！」

「ひかりちゃんのちっちゃなオマンコに、極太チンポが入っているところをよく見せてあげて…」

あぁあ…

「んっ！あんっ！あんっ！あぁっ！」

恥ずかしいのに…それがすごく濡れて感じちゃう…。  
両親には今日の撮影の事を内緒にしてたけど  
こんな淫乱な姿、絶対に見せられないよ…。  
お父さん、お母さん…。こんなエッチな子になってごめんね…

ズポッ

ズポッ



また体位が変わりました。  
この体位は何だろう…横バック？分からないけど気持ち良い…

「どう？ひかりちゃん。  
気持ちいい？」

「あっ…あっ…！  
は…はい…んあ…ああっ！」

本当に感じちゃう…  
バックと変わらないくらい  
奥突かれてるし…

あっ♡

「あんっ…んっ…あんっ！あんっ…！」





気持ち良くておかしくなっちゃいそう…。  
AVって抵抗あったけど、お仕事でこんなに気持ち良い  
思いができるんだからお得なのかも…

「あんっ！あんっ！あんっ！あんっ！」

あ…またカメラマンさんが  
結合部をアップで映してる…。

「あんっ！あっ！あんっ！」

私、いやらしい汁垂らして  
ないかな？恥ずかしいよ…

あぁ！

あんっ！

「んっ！あっ！あっ！あっ！」



「はあ…はあ…(この子のマンコ、マジで気持ち良いな…。  
声も可愛いし意外と人気出るかもな…)」

パン…

パン…

「あんっ！あんっ！あんっ！」

男優さんもそろそろ  
限界なのかな？  
息が荒くなってる…

「あんっ！あつ！  
あんっ！あんっ！」

あ♡

あ♡

でもこんなに射精我慢できるなんてすごいな…。  
元彼は正常位ですぐイっちゃってたし…





元彼は今頃どうしてるんだろう？  
あの時は私がグラビアアイドルになるのが嫌だって理由で  
別れちゃったけど…。

「あんっ！あんっ！あんっ！」

もしかしてこのAV見たりするのかな。  
正直あんまり見られたくないな…。

あぁ！

あんっ！

「くっ…。(監督すいません。そろそろ限界です…)」



そんなことを考えているうちに正常位に戻りました。  
多分これで終わっちゃうのかな？ちよつと残念かも…

「くっ…」

「あんっ！あんっ！あんっ！あんっ！」

すごい…さつきよりも激しくなってる…。  
こんなのまたイっちゃうよ…

あっ♡

あっ♡

ズッ  
ズッ

ズッ  
ズッ

「ひかりちゃん、そろそろ出すよ？いい？」

「あんっ！あんっ…はい…！出して…んっ！」

中出しされちゃうんだ私…。カメラの前で…この人に…





「くっ！」

「あ…あああああつ…！（す）い…熱いのがおなかに…いっぱい出されてる…」

あああ！

イッちゃう…

ブルッ

ブルッ

これが中出しなんだ…。中出して気持ちいい…。ダメ…私もイっちゃうよ…！

「あああ…あああああつ！」



男優さんがペニスを抜くと  
膣内から精液がドロリと出てきました。  
最後に奥の方に居た男優の人が2人来て、精液を私の体にかけました。

はあはあ

「はあっ……はあ……」

ドロッ……

あ…オマンコから精液が垂れてるところをカメラで撮影してる…。  
きつと今の私、今すごくエッチな顔してるんだろっなあ…

「どうだった？初めてのAV撮影は…」

「はあ…はあ…気持ちよかったです…」





私、AV女優になったんだ…。  
男優さんにそう言われて再認識しました。今更だけど…

がんばります♡

「これからも頑張ってるね（機会があつたらまたやりたいな…）」

「ありがとうございます」

「それじゃあ最後、ファンの皆に一言お願いします」

「笹脇ひかりはAV女優としてこれから頑張ります。  
グラビアアイドル時代からのファンの方も、良ければこれからも  
応援よろしくお願いします…」



あれから一年が経ちました。  
ファンの皆のおかげで、私は売れっ子AV女優として  
そこそこ有名になってきています。

「んっ！んっ！」

「ああ…ひかりちゃんのお口  
気持ちいいよ…」

「んっ…！んっ…！んっ…！んっ…！」

「…うちも気持ちいい…！  
夢にまでみたひかりちゃんの  
生マンコ…！最高だよ…！」

パン

パン

そして今日も撮影日。今日はファン感謝祭ということで  
たくさんの方が来てくれました。





私はこの一年間でかなりの作品に出演しました。  
この業界はとても目まぐるしく、入れ替わりも激しいです。  
生き残る為にたくさんさんの経験をしました。

ジュルッ！

ジュルッ！

「んっ……んっ！んっ！」

「俺……ひかりちゃんの  
初AVを見たときから  
ずっとファンでした……うう……でるっ！」

「俺なんて、グラビアの頃から  
ずっと応援してたよ……くっ……イクっ！」

「んっ……んんっ！」

ジュルッ！

毎日休む暇もなくて大変だけど、とても充実しています。  
以前はお仕事が無くてとても不安だったから……

「次…お願いします!」

「ひかり様! 僕も…お、お願いします…!」

「嬉しい…オチンチンがいっぱい♪」

何よりもファンのみんなに囲まれて…すごく幸せです。  
こうやって必要とされるって、いいですね。  
私結構寂しがりやだから…

あっ♡

「ひかりちゃん、僕はアナルに入れてもいいですか?」

「あんっ…はい。大丈夫ですよ」





「ありがとうございます……くっ……す……す……い……！」

「あっ……入ってくる……大きい……」

「僕もひかり様の  
オマンコを頂きます！」

ズズズ

ズズ

ズズ

あっ♡

「はいっ……召し上げれ♪」

「ひかりちゃんのアナル気持ちいい！  
半年前のあのアナル開発の作品、最高でした。  
そのアナルに入れてるなんて……感動！」

「あんっ！見てくれたんですね……嬉しい……  
んっ！す……い……あんっ！あんっ！あっ！」



DVDも、グラビアアイドル時代の十倍以上は売れているみたいです。

それがすごく嬉しくて…。  
あのままグラビアアイドルを続けていたら  
こんな悦びを得られなかったと思うから…

「ひかり様のオマンコ、最高です！  
ひかり様のオマンコで童貞卒業できて幸せです！」

あっ♡

あっ♡

「あんっ…んっ…童貞卒業おめでとうございませう♪  
卒業記念に中出ししていただきますね…」

「ああ…ありがとうございます…」





「ひかり様…膣内に出します…くっ！」

「僕も…アナルに出します…くっ！」

「あんっ…いいですよ…」

私の中に  
たくさん出して下さいね♪」

「僕も出ます…！」

ああっ♡

「俺もイきます！」

「はい♪その濃厚なザーメンを  
私にたっぷりぶっかけてください…♡」



今の私の夢は、AV女優の最優秀女優賞を受賞することです。  
そのためにはもっと沢山の作品に出て頑張らなくちゃ。

「はぁ…はぁ…みんな  
気持ちよくなってくれましたか？」

「はい…！気持ちよかったです…」

あ…

「はい…！僕、一生ひかり様についていきます！」

「ありがとうございます。笹脇ひかり、これから頑張ります。  
みんな、応援よろしくお願いします」

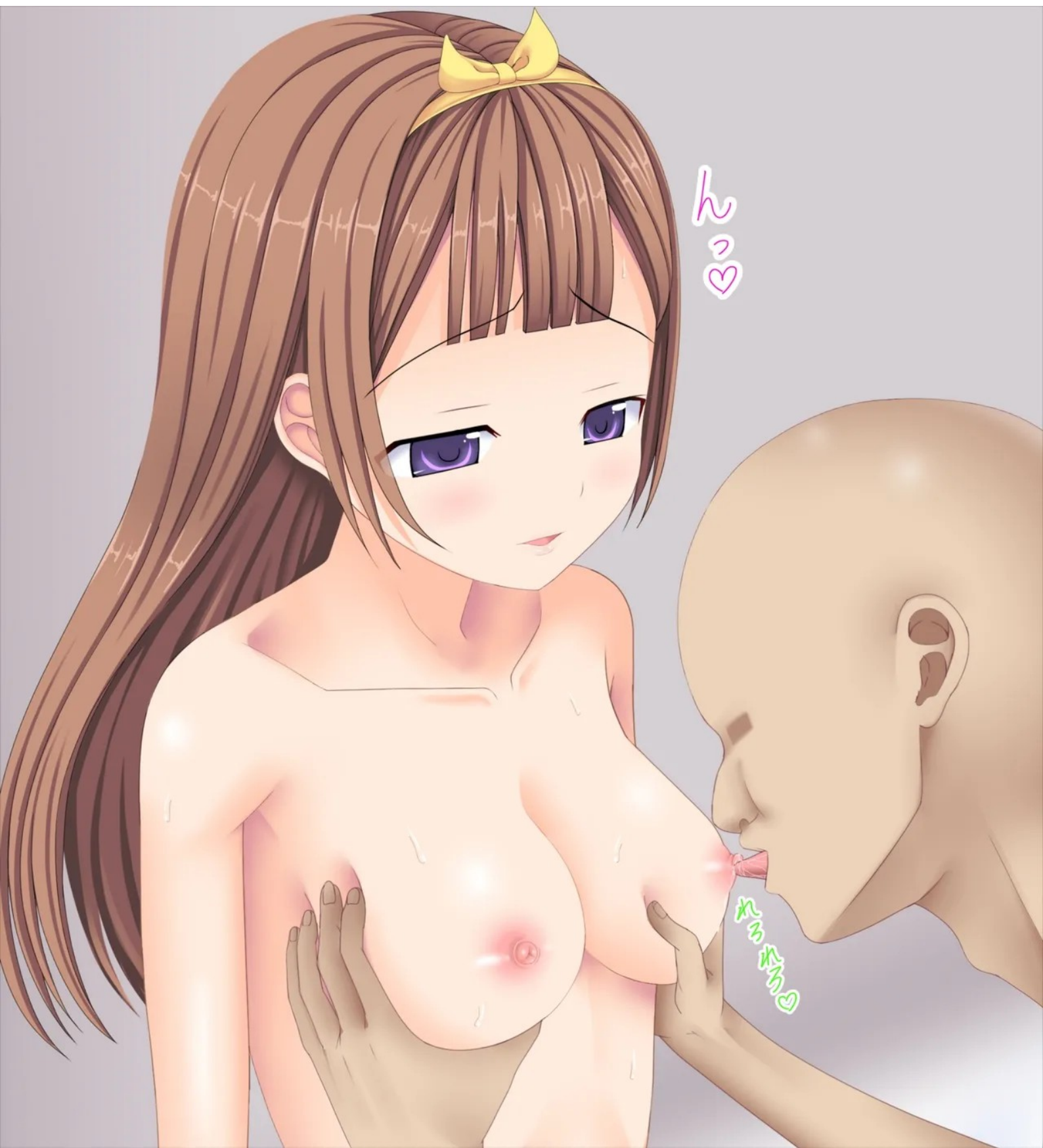


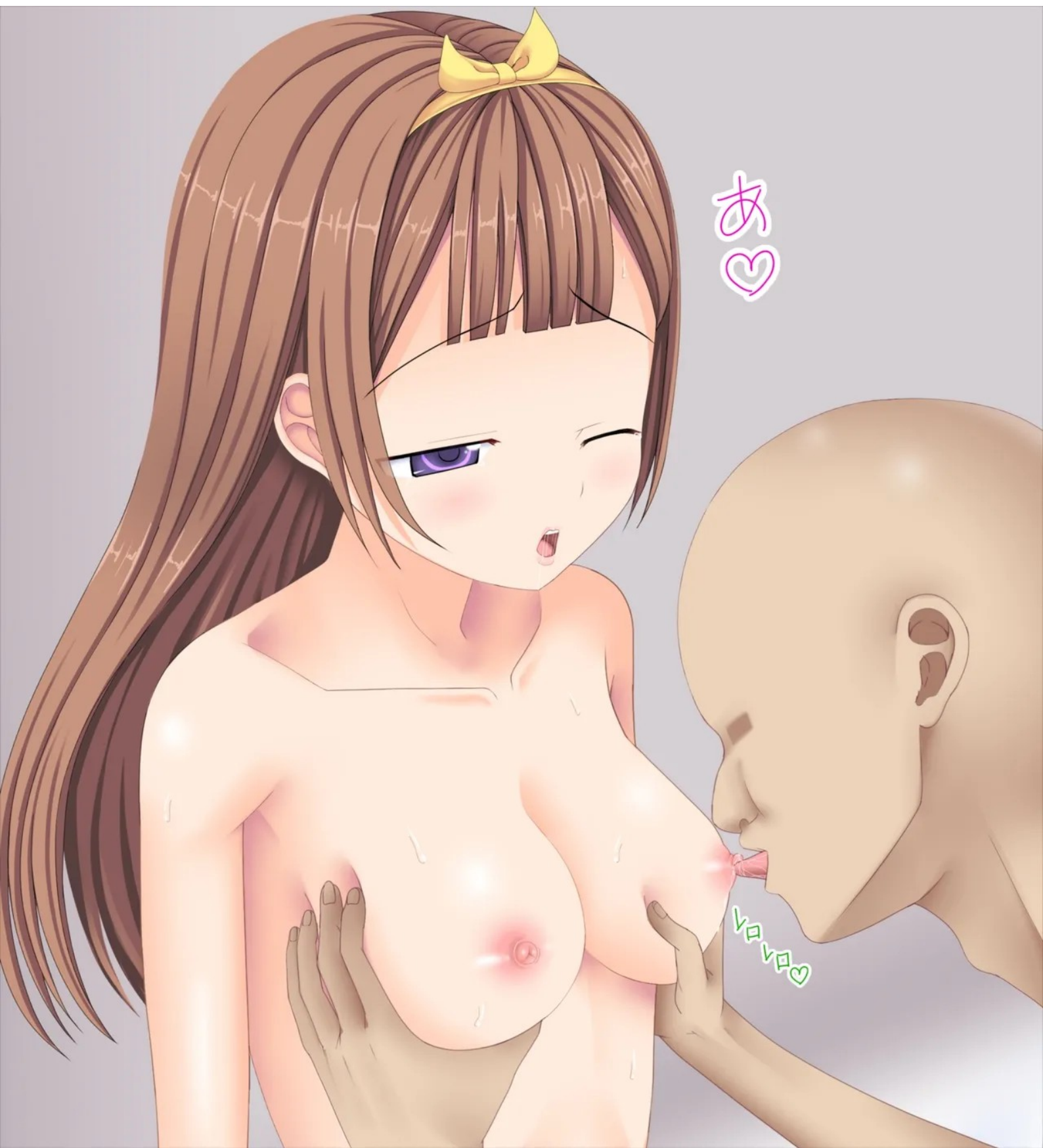


































あぁっ

あぁっ



























あああ...

ズ  
ッ  
ッ

ズ  
ッ  
ッ

















イッちゃう…

あああー！

ギュルッ

ギュルッ





がんばります♡



















































































































